

# 花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. **02**  
令和4年9月21日号

日時：令和4年9月21日（水）  
9：00～11：30  
場所：馬見丘陵公園  
ボランティアハウス  
参加者：24人

9：00～9：20 全体説明  
9：20～10：00 花壇観察・低木類剪定・雑草、既存苗の撤去  
10：00～10：30 苗の配置  
10：30～11：00 花壇、コンテナの植え付け  
11：00～11：30 灌水、管理のアドバイス



▲9/21 施工花サポーター花壇

## デザインシート（各グループ）



## 秋花壇の施工を行いました！



台風一過で一気に季節が進み、作業しやすい気温の中で秋花壇の植え付けを行いました。

花壇施工の前半では花壇周りの低木類を剪定し、雑草や一部の既存苗を撤去して新たな花壇施工の準備を行いました。

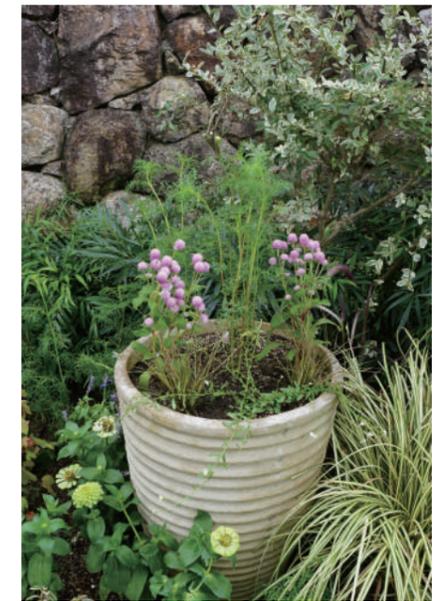
後半では花のデザインシートを基に、位置や方向を調整していただきながら配置し、全体のバランスが整ったところから植え付け作業を行いました。苗の状態や既存苗とのバランスを考え、各班で位置を調整する人と遠くから見る人などで役割り分担するなど、工夫しながら作業を進めていただきました。



## 秋花壇・コンテナのデザイン

1回目のWSでデザインしたプランを基に、苗の流通や隣り合う班との調整等を行い、上記の①～⑥の施工図面を用意しました。残念ながら、ガイラルディアとゴシキトウガラシは苗の在庫が無く、代わりにエキナセアとストロビランサスを使用する案としました。

花壇全体の統一感を出すため、花壇内のコンテナに植える花は全て同じものとししました。花壇テーマ「**実りいっぱい 秋のカーニバル**」を意識して、花ごとの区画割を細かく分け、色んな種類の花が混ざった賑々しさを表現しました。





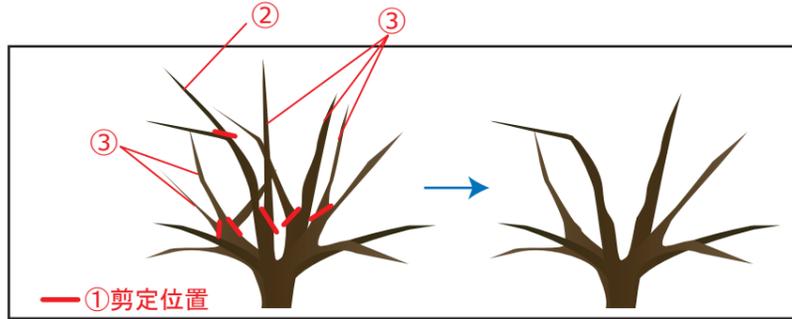
## 低木の剪定方法

### ボーダー花壇における低木の維持・管理

ボーダー花壇の後方の幅 50cm の部分には、シルバープリペット、マホニアコンフューサ、ニューサイラン、ドドナエアを植えています。これらの低木類の植え替えは行わず常設し、ボーダー花壇の前方の幅 120cm の部分の植え替えを毎年行っています。常設の植え替えを行わない部分ですが、低木類も成長に応じて手入れを行ってあげましょう。

樹木の剪定方法は草花の摘心と同じ考え方です。

- ①切る位置：枝の分かれ目の根元部分
- ②高さ調整：枝の分かれ目で剪定
- ③密度調整：内側に向かっての枝や徒長枝（上に向かって勢い良く伸びる枝）等



▲樹木の剪定位置図

### 夏の剪定と冬の剪定

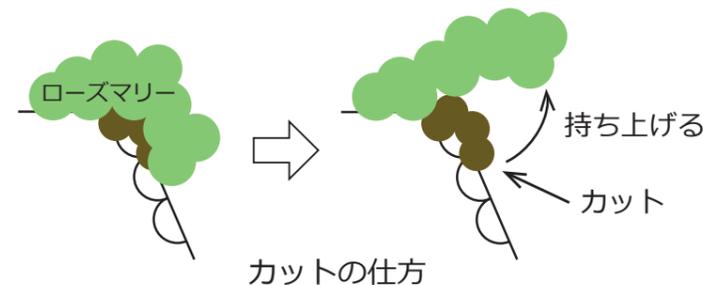
今回は、花壇施工に合わせて剪定を行いました。ご家庭でお庭の手入れをされる場合などは、以下の時期を参考にしてください。

**夏** 弱剪定（じゃくせんてい）と呼ばれる軽めの剪定を行い、成長しすぎた枝や葉を切って全体的に形を整えます。おもな目的は風通しや日当たり、栄養状態の改善で、夏に繁殖しやすい病害虫を予防し、花や実が付きやすくなるようにします。また、バランスの悪い枝を取り除いたり枝を短くしたりすれば、台風時に木が折れてしまうのを防ぐこともできます。

**冬** 太い枝を短く切ったり、芽をたくさん切り落としたりして樹形を大きく変える強剪定（きょうせんてい）を行います。強剪定のおもな目的は、樹高や樹形の調節と生育の促進です。大がかりな剪定で樹木への負担が大きいため、成長期の夏は避けて休眠時期の冬のうちに不要な枝をしっかりと取り除いておきます。

### 石垣上のローズマリーの剪定

H28 年度の花壇づくりワークショップで、ボーダー花壇後方の石垣上にローズマリー、山ぶどう、ヘンリーヅタを植えました。当初は石垣上からツタ類が垂れてくるイメージで施工しましたが、6 年経過し、ローズマリーだけが元気に生き残っています。ローズマリーはお肉料理によく使われますが、剛健で繁殖力も高い植物です。繁殖して放置した結果、枯れてしまっている部分があったため、枯れた部分を剪定しました。これは日が当たらなかった部分が枯れてしまったと考えられます。苗全体を持ち上げて下部分の“枯れ”のみを切り、生きている部分はその上に戻します。さらに風通しを良くするため、“すく”ように全体をカットします。春花壇をデザインする際は石垣上のローズマリーや後方のソメイヨシノなどの借景も考えながらデザインしてみましょう。



## 水やりの方法

植物を育てるのに一番の基本となるのが水やりです。特に、植え付け直後は必ずたっぷりと水をあげてください。ここでは、基本的な日常の水やりについて紹介します。

### 土が乾いてから水を撒く

土の表面が湿っている場合は、土にまだ水が含まれている状態なので、基本的には土の表面が乾くまで水やりの必要はありません。見た目で分かりづらい場合は、土に触れてさらっとしていれば乾いているので、水をあげましょう。ただし、地植えの場合は雨が降ると土の中に一定の水分を含んでいることが多いので、頻りに水やりは不要です。植え付け直後や、水をよく好む植物、暑い時期に土が極度に乾燥した場合には水やりをしてください。



▲土が湿った状態



▲土が乾いた状態

### 1回の水やりはたっぷり

水をあげるときは、根全体まで水が届くようにたっぷりとあげましょう。たっぷり水をあげることで、土の中の水分や空気が新鮮なものに入れ替わり、栄養分の吸収も良くなります。

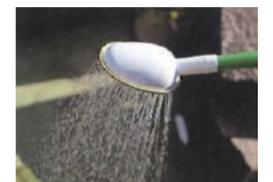
### 水やりは午前中に行う

植物が光合成を行うには水が不可欠です。そのため、植物が水を必要とする朝のうちに水をあげましょう。また、夜に水やりをすると、葉が一晩中濡れたままになる可能性があり、病害虫が繁殖しやすくなります。

夏季は日中の水やりは避けましょう。夏の日中は気温が高くなり、水やりをすると外からの温度と植物自身の温度に大きな差ができてストレスを感じます。また、あげた水が温められて熱くなりやすく、根を傷めてしまうこともあります。



上向き



下向き

### 水は地際に向けてあげる

花苗に水やりをする際は、花自体に水が当たるように上げるのではなく、できれば花に向かってではなく地際に向かって水を向けてあげましょう。水圧で花茎が折れてしまうなどのトラブルを防止することができます。



ハス口を外す

▲様々な水やりの方法